

三好の天気を左右する剣山系のコミツ



【写真】 剣山山頂付近にある石灰岩



【図1】 海のプレートの上にたまっていたものが陸のプレートと衝突し、堆積していたものが陸のプレートにくっつく。

【図2】 どんどんくっつき、盛り上がる。

この岩石は「チャート」という岩石で、陸から遠く離れた海の底でプレートの死骸がたまり、押し固められてきた岩石です。このように剣山付近を歩くと、太古は海だった様子を垣間見ることができるのです。

海の底からどうして高い山に成長したの？

石灰岩やチャートのように「海の底だった」証拠がたくさんある剣山。ではなぜ、高さ1955mの山へ成長したのでしょうか。それには地球の大きな活動が関係しています。

海の底にたまってできた石灰岩やチャートは、「プレート」による運動で、遠くから運び込まれたものです。プレートとは、地球の表面を覆っている厚さ数センチから数十センチの塊で、現在、地球表面には14〜15枚のプレートがあります。プレートには「海のプレート」と「陸のプレート」の2種類があります。

剣山の石灰岩やチャートを運んできた海のプレート（フィリピン海プレート）は、まるでベルトコンベアのような役割を果たしています。つまり、海の中で作られたサンゴやプレートの死骸は、海のプレートの上にとんどんたまりながら、陸のプレート（ユーラシアプレート）に向かって進んでいきます（図1）。そ

してついに、陸のプレートとぶつかります。

陸のプレートにぶつかると、海のプレートの上にたまっていった石灰岩やチャートはこそぎ取られ、陸のプレート側にくっつき、こそぎ取られた海のプレートは地球の深いところへ沈んでいきます。しかし、ベルトコンベアである海のプレートの運動は止まることはなく、次から次へと陸のプレートにぶつかります。従って、海のプレート上にたまっていったものがとんどん陸のプレートにくっつき、盛り上がりしていきます（図2）。このような運動によってできた山々が剣山系なのです。

剣山と三好市の未来

このように昔、剣山系を作りだした材料は海の底にあって、プレート運動により2000m近くまで成長しました。さらに、剣山系はまだまだ成長期まっただ中であり、とんどん隆起し続けています。このことを含めて三好市の将来を思い描いてみると、剣山系の傾斜地集落の様子は剣山の成長とともに変化していくかもしれませんね。

【お問い合わせ先】

三好市教育委員会 文化財課  
072-3910



地域おこし協力隊 活動報告

三好市役所 農業振興課 勤務

福田喬也



三好のお茶の魅力を感じてもらいたい10月には四国まんなかのお茶会を開催予定

6月の梅雨時期といえは「梅」ですが、今年も徳島大学の一般教養の講義「食の地域経済学」のフィールドワークとして6月17日・18日に総勢74名の大学生が井川町を訪れました。入梅してから雨が少なかったため、梅の収穫がスムーズにできました。

午前中は辻の町並みを歩き、ガイドさんから辻の歴史などを紹介していただきました。午後からは井内で梅の収穫体験と梅シロップ作り体験を行いました。梅の収穫



▲7月1日の東祖谷落合での茶会。東祖谷の番茶、山城の歩危茶、天空ノ山茶、西祖谷の有瀬茶を飲み比べ

体験では、大人しかった学生もはしゃぎながら、ひとつひとつ手で収穫しました。今年で徳島大学の梅の収穫体験の受け入れも4年目になり、やはり継続することは大切であると感じております。また7月1日には、三好市内のお茶の飲み比べをテーマに、東祖谷の落合でお茶会を行い、東祖谷の番茶、山城の歩危茶、天空ノ山茶、そして、西祖谷の有瀬茶を飲み比べしていただきました。地域ならではの風味の違いを楽しんでいただき、三好市のお茶の魅力を感じてもらえたのではないかと思います。10月には昨年も行った四国まんなかのお茶会を開催する予定です。飲み比べをしてみたい、自身の好みの風味を見つけてほしいと思います。2014年より大歩危と有瀬に昔からある自生のお茶「天空ノ山茶」の販売を開始しています。特におすすりのお茶です。ぜひ味わってみてください。

三好市教育委員会 文化財課 勤務

殿谷 梓



お茶しながら三好の良さを語り合いませんか？ 第1回ジオカフェを山城町で開催

6月25日（日）の14時から山城町で第1回ジオカフェを開催しました。ジオカフェは、「ジオパーク」と「カフェ」を合わせた言葉で、三好市の地域資源やジオパークのことなどについて、お茶を飲みながら気軽に語り合う会です。

第1回目のジオカフェはジオパーク先進地域である室戸ユネスコ世界ジオパークのジオガイドさん3名と四国西予ジオパークの専門員さん1名をゲストに



▲第1回ジオカフェの様子。室戸ジオガイドさんによるジオパークのお話

参加者からは、「ガイド料金はどのくらいですか」「ジオガイドをやっているのか」「ジオパーク活動に参加しているのか」「ジオパーク活動をして良かった点は何か」ということについて、室戸の事例を用いて説明してもらいました。

参加者からは、「ガイド料金はどのくらいですか」「ジオガイドをやっているのか」「ジオパーク活動に参加しているのか」「ジオパーク活動をして良かった点は何か」「行政とジオガイドとの関係性はどうか」など、さまざまな質問が出され、参加者のジオパークへの関心や地域資源への想いを感じ取ることができたジオカフェとなりました。

このジオカフェは隔月、毎回開催場所を変えて催す予定です。次回は、8月20日に井川図書館で開催予定です。

もし良ければジオカフェに参加してみませんか？